

(日)

令和6年12月8日 愛媛新聞

## えひめの歴史文化モノ語り

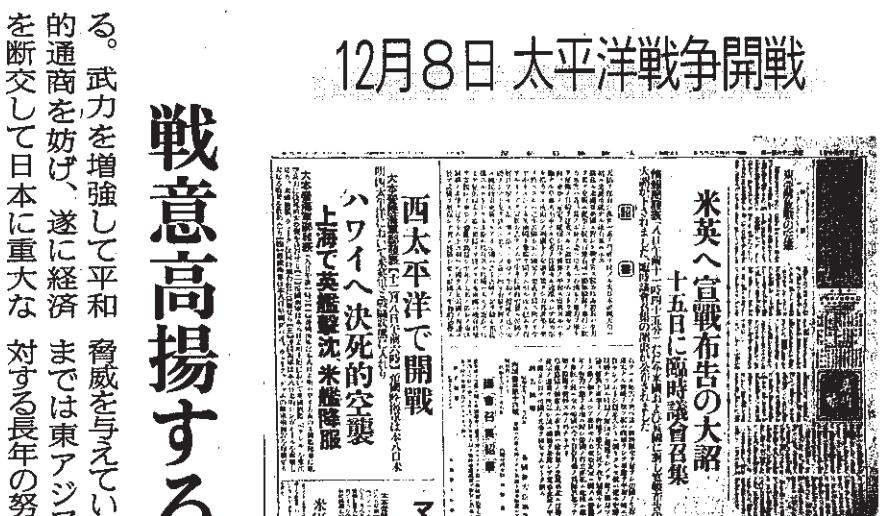
県歴博収蔵資料から

(19)

終戦の日が8月15日である。その内容を現代文で要約すると、「日本は多くの方が知つてゐる」とある。しかし、開戦の日を各國と交流を深め共に繁栄知つている方は少ないので、それを外交の要としている。今回紹介する資料は1941(昭和16)年12月8日に太平洋戦争が始まりたことを報じた翌日付の大坂毎日新聞である。同紙は朝日新聞などと並ぶ全国紙であった。

開戦の大詔、「米英へ宣戰布告の大詔」、「西太平洋で開戦空襲」などの大きな見出しが並んでいる。そして、中央には開戦の詔書が掲載される。

「米英は重慶の残存政権を支援して東アジアを乱す。武力を増強して平和を図っている。このままで平和の名のもとに東洋の通商を妨げ、遂に経済を断交して日本に重大な損害を与える。愛媛県知事は『軍部に絶対の信頼をなし、協力一致、各々の職域奉公し、生産力拡充、増産奨励に銃後援護の完璧、防空の完遂等に突進』する所を眞民に求めていた。



太平洋戦争の開戦を報じた新聞(昭和16年12月9日付、大阪毎日新聞)=県歴史文化博物館蔵

## 戦意高揚する新聞紙面

帰す。自存自衛のため障害を打破し、東アジアに永遠の平和を確立して日本が近隣諸国に多くの被害を与える。

東アジアを米英の脅威から解放する」ことが戦争の目的とされたのである。裏面には「必勝の意氣昂然」、「県民の血はたまどり、伊予路に鐵石の構え整ふ」とある。愛媛県知事は「軍部に絶対の信頼をなし、協力一致、各々の職域奉公し、生産力拡充、増産奨励に銃後援護の完璧、防空の完遂等に突進」する所を眞民に求めている。

（専門学芸員・平井誠）

△随時掲載します△